



【2017-11-01】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『子犬の世話は、イクメン失格夫
のつぐない！』

長野修二

子犬の世話は、イクメン失格夫のつぐない！

子犬の世話をしてみると、私が仕事をしているときに感じた疲れとまったく違うことがわかりました。

とにかくなんにでも興味をもち、手当たり次第に噛みます。

私はいろいろなものを噛むのは、子犬である以上仕方がないことだとわりきることができず、また、噛まれてどうしても困るものは子犬が生活する部屋から移動しています。

ただし、家電などのコードやファンヒーターのガスホースは、子犬にとっても私たちにとっても危険ですので注意が必要になります。

よく動き、あらゆるものを噛みますので、その行動を注力するのに非常に神経を使うことになります。

このことは、自分の子供たちの育児をしていないものにとって、はじめて経験するような緊張感でしょうか。



人間の子供に比べると、子犬はトイレは自分でおこないますし、当初は部屋でお漏らしをしていましたが、1週間かからずゲージの中でトイレをするようになりました。

また、おむつの交換も必要ありません。

さらに食事はドックフードを朝夕2回食べさせるだけです。

しかも、今度購入したブリーダーさんのところでは、はやい時期からドックフードのままで給餌していたため、我が家にやってきても小さな歯でカリカリとかわいらしい音をたてて食べてくれます。

妻と驚いてみていますが、なんとも音がかわいくて微笑ましい光景です。

先代は1日4回ドックフードをお湯などでやわらかくして給餌していましたから、この方法でおこなう給餌は飼い主の手間もかなり省けます。

本などを読むと柔らかくして4回くらいに分けて餌を与えますと、書かれていたりします。

少し不安になり獣医さんに聞くと「硬いままで食べるほうがよし、なにより過保護が一番よくありません」とアドバイスされました。

歯もしっかりしており、とにかく元気でよく動き、よく噛みます。甘噛みもとても痛いです。

このように人間と比べると、はるかに容易な子育てですが、それでもはじめて子育てをしているものにとって、この緊張感は今までにないものです。

妻に言わせると、子供たち二人と犬を育てていたのだからその大変さがわかったでしょう、と言われ、御意でございますと、返事をしました。

とにかく子育ては無上の愛と自らの献身以外ないのではないのでしょうか。

ダメ夫は、子犬のおかげで、この年齢になってはじめて少しばかり子育てがわかるようになりました。

妻は途中から仕事もはじめましたから、私が早朝出勤した後、子供たちを学校へいかせ犬の散歩を慌ただしくするなど子供と犬の両方の世話してくれていたようです。

なにも知らないイイカゲン夫に変わり、苦勞をしていたのだということも理解できました。

私はこのような事実は無頓着で仕事だけに邁進していましたが、

仕事も結構自分のペースでやってきましたので苦勞というほどの経験もなかったかも知れません。

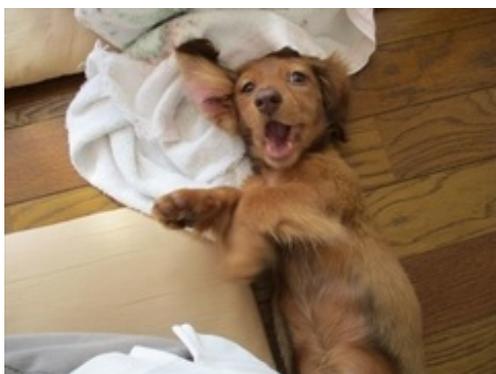
最大の苦勞といえば、会社に拘束されることくらいでしょうか。仕事も大変なことは沢山ありますが、ゲーム感覚でやっていた私は苦勞＝ゲームの課題程度に捉えていましたのでそれほどでもなかったように思えます。

一番苦勞をするのは、やはり人間関係でしょうか。

もっとも、ゲーム感覚が過ぎて転職をやりすぎたきらいがないではありませんが、自分の蒔いた種ですからその結果は甘んじて受けなければなりません。

それにしても子犬とは言え、ゲーム感覚で世話をすることなどできません。

当たり前ですが、子犬の命を預かっているのですからその動きや体調に気を配り、無事成長してくれるように支えていくことが、毎日毎日続くのですから、その緊張感たるや仕事の比ではありません。



しかも、相手はこちらの気持ちなど関係なく、日々あらゆるものにチャレンジします。

まさに根競べ状態でしょうか。

子犬でこれですから、まして人間の子育てとなるとレベルが違わずです。

今更ながらこの世で一番むずかしいことは、子育てだと確信するに至りました。

理解する時間と年齢は、重症レベルの遅さですが。

それに比べると会社の仕事などの苦労は、知っているのかもわかりません。

我が家も妻がほとんどの育児をしましたので、その結果は、見事に二人の息子に反映しています。

当然、なにごととも母親に相談しますし、私は妻の相棒程度の扱いでしょうか。

さらに子供たち以外に、15年間に渡り先代のミニチュアダックスを育ててくれ、こちらも良い子に育てて、我が家を幸せにしてくれました。

我が家における子育ては、本当に妻の御蔭だったと、しみじみ感じる今日この頃です。

何事も経験に勝るものはなしということでしょうか。

そして女性の偉大さを改めて感じると同時に、子犬のおかげで妻と我が家の子育てのことを再確認できたことに感謝しています。

